

日本ヒューレット・パカード株式会社 × 遠野まごころネット

弊社震災復興ボランティア会は東日本大震災の復興支援を目的として2011年12月に結成されました。きっかけは調布市社会福祉協議会のボランティアバスでした。2011年7月～10月にわたり計7回実施され、私たち有志は最後の3回にそれぞれ分かれて合計25名が参加しました。震災後7ヶ月が経過しだいぶ落ち着いたのではという予想は見事に裏切られました。初めて訪れた陸前高田や釜石はまだ瓦礫の残り、震災の傷跡が生々しい状況でした。このまま終わらせたくないという参加者社員の強い思いが会社を動かしました。翌年2012年3月から7月までの活動予算を得る事ができました。もちろん調布市社会福祉協議会と連携し、さらに調布市に拠点のあるマニユライフ生命保険（現在は渋谷区に移転）と連携して活動しました。予算満了後には調布市社会福祉協議会の計らいで調布市のバスを復興支援に使わせていただける事になりました。以来2011年7月から数えて38回もの復興支援活動を継続する事ができました。

弊社も一社とは言え参加メンバーは様々な部署から集まりました。当初はほとんどが初対面、なにせ数千人もいる会社ですから。部署も営業部門からサポート部門、間接部門まで様々。雇用形態も正社員だけではなく派遣社員、契約社員、業務委託等いろいろです。それでも東北の復興のために何かをしたいという同じ思いで集まりました。そのうち何人かのメンバーはリピーターとなり、調布市民ボランティア、マニユライフ生命保険社員とともに復興支援を目的に集まるコミュニティもできました。



現地までの交通手段は調布市のバスを借りる事で移動に時間はかかるものの非常に安価に行う事ができています。さらに宿泊場所は岩手内陸の遠野市の自治会館をお借りする事で、雑魚寝という制約はあるもののこれも大変安価に滞在する事ができます。これにより毎回20～30名の安定した参加メンバーが集まり、現地で効率的な活動ができています。また、活動に当たっては当初は遠野から沿岸部を広く支援する「遠野まごころネット」にお世話になる事で地域のニーズに合った活動をする事ができました。現在では遠野まごころネットに限らず、そこと連携した団体での活動へと広がりを見せています。



我々チームの特徴はなんと言ってもチームワークです。どんなに厳しい活動内容でも参加メンバーが知恵を出し合って解決していきます。通常のボランティア活動は終わらなければ翌日別の人が引き継ぐのが基本です。でも、我々チームは与えられた活動を無理する事なく創意工夫で完璧にこなしています。だれか特別な能力を持った人がいるわけではなく、その場にいる人が自分の能力をどうしたら活かせるかを考え、提案しながら作業を進める事で、最高の生家を発揮しているようです。このような事は他のボランティアチームにならなく、我々チームはいつもその日にあるもっとも困難な活動を斡旋されました。

このような活動を続けて早くも震災から5年の節目を迎えようとしています。次回3月の活動が39回目と40回に迫る勢いです。昨年は栃木県の鹿沼市や茨城県の常総市で大きな水害に見舞われ、我々メンバーも東北の復興支援活動から飛び出して有志でそれらの支援に向かいました。東日本大震災の復興もまだまだ途上で引き続きボランティアのニーズは続いてあります。一方でそれ以外の地域では新たな災害での被災地が不幸にもできています。我々チームは東日本大震災の復興支援活動を続けながら新たな災害被災地の復興支援のために活動を継続していきたいと思っています。